

進級、新入園おめでとうございます。今年度もどうぞよろしくお願いたします。

先日、小学校の入学式に参加してきました。式の最後に、6年生から新1年生へ「小学校は何をすることでしょ？ ①勉強するところ。②給食を食べるところ。③友達と遊ぶところ。さて、何番でしょう？」というクイズがあり、「1ばん？」と答える子が多い中、わが園の卒園児は「ぜんぶ！」と大きな声で答えていました。もちろん「全部」が正解です。「イエ～イ！」と喜んでいる姿に、うちの卒園児らしいなと笑ってしまいましたが、しっかりと考える力が育っていたことをうれしく思いました。

さて、小学校へ入る前に子どもが通う施設の主なものとして、「幼稚園」、「保育園」、「認定こども園」があります。何がどう違うのか、一般の方々にはなかなかわかりづらいかと思いますが、よく「幼稚園や認定こども園は、学校と同じ教育の場だけれど、保育園では教育がなされていない」などと言われたりすることがあります。「教育」というものをどう捉えるかということもあるのですが、保育園でもしっかりと必要な教育を行なっていますので、どうぞご安心ください。

今年度「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「認定こども園教育・保育要領」が改訂され、2018年度から施行されることになっていますが、どの施設であっても幼児教育に関する部分においては、大きく変わることはないように配慮されています。どの施設においても、共通して幼児期に育みたい資質、能力として、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱が示されています。このように書くと、なんだか難しく感じますが、「水は高いところから低いところへ流れていく」とか、「砂は濡れると色が変わる」といった経験から知っていることが「知識」であり、硬いお団子を作るためにいろいろ工夫してみることは「思考」であり、「もっと良いものを作りたい」という意欲は「学びに向かう力」です。

さらにこれら3つの柱は、それぞれ単独で身に付けていくものではなく、相互に絡み合うようにして伸びていくものです。たとえば、積み木で大きな家を作りたいと思っている子どもがいるとして、積み木の形を把握したり、積み方を覚えたりするのは「知識」の獲得であり、それをもとに「どうすれば高く積めるかな」といろいろ工夫してみることは「思考」であり、さらに「もっと良いもの、おもしろいもの、カッコいいものを作りたい」という意欲が、知識の獲得や思考の働きを高めていきます。これが「学びに向かう力」となるのです。

学校に上がるまえの幼児期では、学校のように机に座って行う勉強ではなく、こうした子どもの興味や関心に沿って、十分に遊び、いろんな経験をするのが大事なのです。ただ遊んでいるだけのように見えるかもしれませんが、子どもたちは遊びを通して、さまざまな学びをしているわけです。

つまり、幼児教育というのは、学校に上がってからの教育とは少々異なり、遊びを通して、さまざまなことに子ども自身が興味関心を持ち、深め、広げながら、いろんな経験を積んでいくことが大事であり、それがのちの学校へ上がってからの学習にもつながっていくものなのです。

数年前に保育制度が変わって、「保育園」から「(幼保連携型)認定こども園」へ変わる園も増えてきました。しかし、認定こども園に変わって「幼児教育をしっかり行ないます！」を宣伝文句とし、外部講師を雇って子どもにいわゆる「お勉強」をさせているところが結構あったりして、「幼児教育」というものを誤解されているのでは？と思う園も多く見かけるようになりました。

幼児期における本当に必要な学びは、遊びの中にあると考えています。遊びのなかで、子どもたちが経験していること、身に付けている力などを、今年度も各保育室に掲示しておりますスケッチブック等を通してお伝えしていければと考えています。